

情報活用基礎としての論理力強化

2017年 11月 6日

室蘭工業大学
東京事務所

刀川 眞

171020

パネリスト紹介

- ・ 昭和49年：日本電信電話公社 横須賀電気通信研究所
- ・ 平成元年：NTTデータ システム科学研究所
- ・ 平成18年：室蘭工業大学 情報メディア教育センター
- ・ 平成28年： // 東京事務所

- ・ テーマ：社会情報システム論



1 IoT、AI～の狙いと基本的課題

(1) IoT、AI～の狙い

- ・膨大なデータの発生
- ・膨大データの解釈 → 新たな価値の発見
- ・価値の発信

新たな価値
の創造

(2) 基本的課題

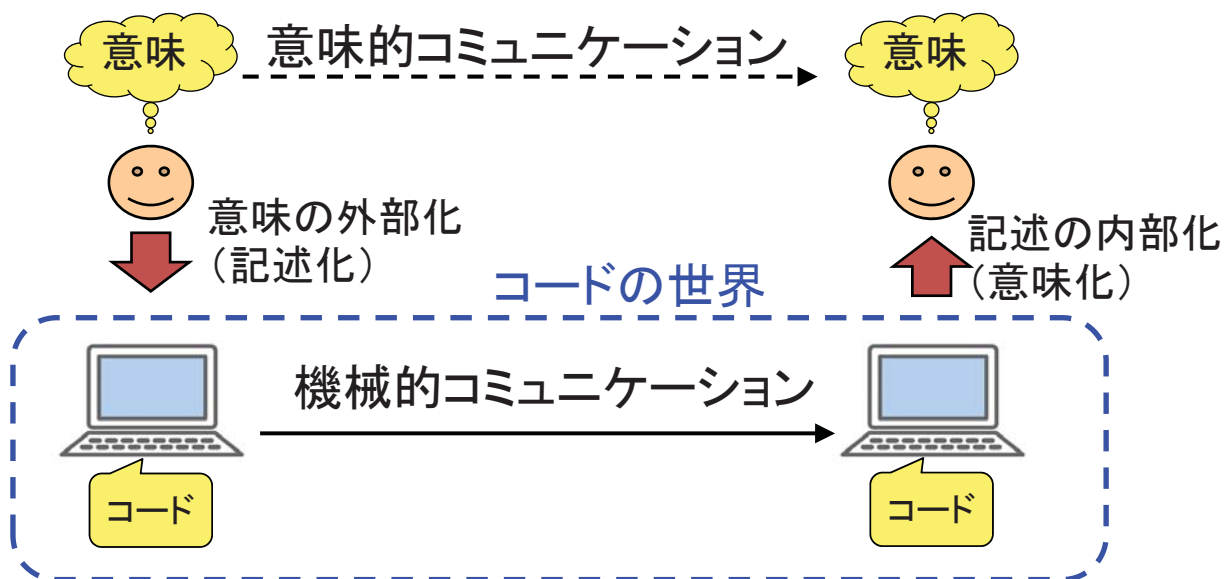
人間とコンピュータの情報形式差

- ・コンピュータ・コード情報
- ・人間………意味情報

∴コンピュータを使うには「意味⇔コード」変換が必要
変換できるのは人間のみ(コンピュータはNG)

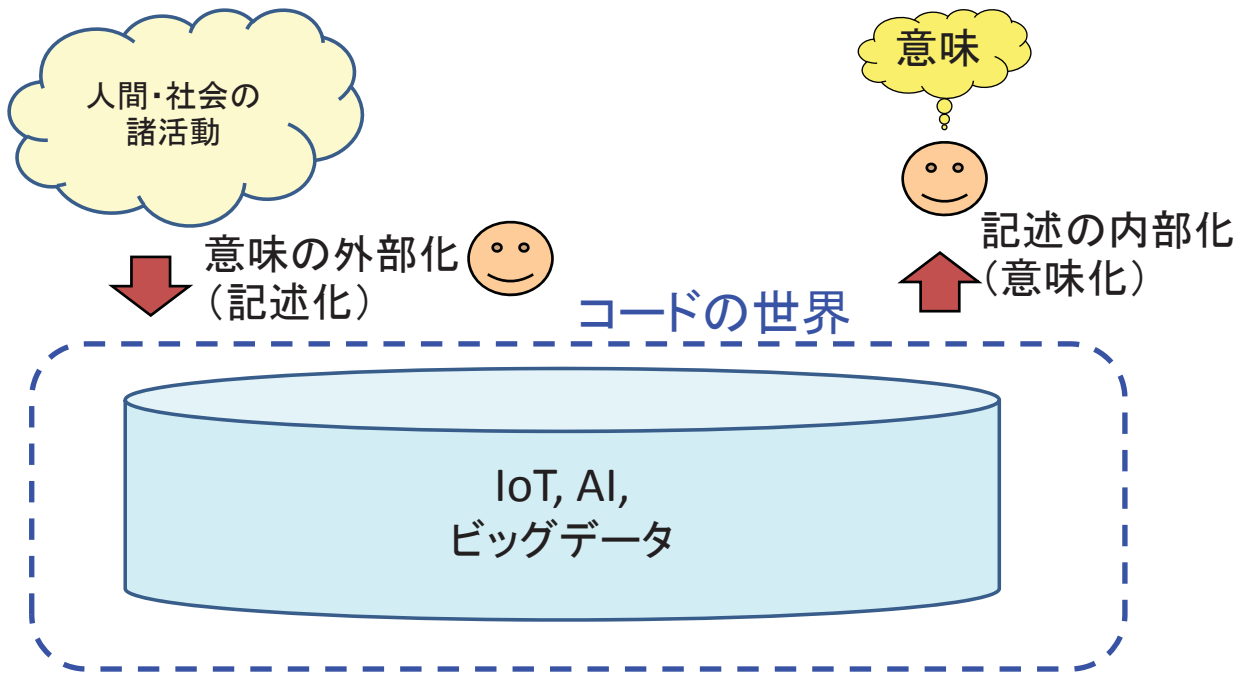
2

2 情報形式変換：コミュニケーションの場合



3

3 情報形式変換：IoT, AI～の場合



4

4 情報活用の基礎となる主要能力

- ・事象のメタ理解
 - ・課題の分離、本質の抽出
- } 論理力
- ・価値の発見
 - ・価値の論理的表現、発信
- } 論理力
- ：

我が国はハイコンテクスト社会（「あうんの呼吸」）のため、「意味⇔コード」変換レベルが低い（低くて済む）

「腰のあたりをグーッと、グーッとパワーでプッシュして、ピシッと手首をリターン・・・」

⇒ 論理力の強化

5

5 論理力の強化に向けて

言葉の力としての国語力

(≠“古池や蛙跳び込む…”)

※1:企業の期待する学生像・・

コミュニケーション力、人間力、地頭～

→「論理力」が大きな要素

※2:根本的には初等教育から

※3:プログラミング教育で論理性が養われる?

(プログラマーはみな論理的!?)